

令和4年5月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和4年5月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

国天然記念物の指定100周年を迎えた鮫町の蕪島で、4月16日朝、今年初めてウミネコの産卵が確認され、親鳥がおなかで大事そうに卵を温める姿が見られるようです。5月20日前後にひなが誕生する見通しとなっているので、優しく見守ってあげましょう。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

### 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 5月号 レポート

令和4年4月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	熊谷市政 本格始動 コロナ対策、経済最盛重大局面
(2)	八戸市 dボタン広報運用開始 県内初ABAシステム活用
(3)	蕪島で環境調査開始 八戸市教育委員会、保存活用計画策定へ
(4)	八戸市図書情報センター 特設コーナーでブックセンタースタッフが選書
(5)	八戸市三日町、十三日町 歩道拡幅、車道2車線に
(6)	八戸市、津波ハザードマップ改定案 今夏にも新たな計画提示

## 【産業】

記事	概要
(7)	三春屋（八戸）閉店 52年の歴史に幕
(8)	東北新幹線全線再開 震度6強脱線1か月ぶり 5月13日から通常ダイヤへ
(9)	県産リンゴの発砲果実酒 八戸酒造とJAアオレン共同開発 新発売
(10)	全漁連とJTBタッグ 支援事業八戸でスタート
(11)	八食 独自に燻製ブランド 前沖さば、リンゴのウッドチップで
(12)	エプソンアトミックス 八戸や周辺軸に新工場

## 【地域】

記事	概要
(13)	熊谷風音さん（八戸高専）市長賞「こどもホスピス」建築提案
(14)	聞いてけろ 放送6000回目 BeFM番組「おもしろ南部弁講座」
(15)	PR用の紙芝居 動画化 八戸商工会議所「地場産品に愛着持って」
(16)	無償塾開講へ高校生奔走 猪股美玲さん（八戸・ウルスラ高3年）

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	八戸三社大祭 山車運行3年連続見送り
(18)	アンサンブル金沢のコンダクター 松井慶太さん（八戸出身）9月就任
(19)	総合格闘技「修斗」工藤諒司さん（八戸出身）PFL参戦

	<b>八戸市、津波ハザードマップ改定案 今夏にも新たな計画提示</b>
(6)	八戸市は4月21日、日本海溝・千島海溝沿いを震源とする巨大地震の発生を想定した津波ハザードマップの改定案を明らかにした。改定案は青森県が2021年に新たな津波浸水想定を公表したのを受けたもので、八戸市は県内で最も高い最大26.1メートルの津波に襲われ、浸水面積は53.5平方キロメートルと予測されており、2013年の改定時より規模が拡大。津波避難ビル27カ所のうち6カ所を利用不可とし、指定避難所は7カ所が利用不可となった。水深の表示も地上から水面までの高さを表す「浸水深」から津波が建物などに追突した際に局所的にせり上がる高さを踏まえた「基準水位」に変更した。市は平行して津波避難計画の見直しを進めており、今夏にも地区ごとの具体的な避難経路や避難場所を示す方針だ。

【産業】

記事	概要
(7)	<p><b>三春屋（八戸）閉店 52年の歴史に幕</b></p> <p>八戸市十三日町の三春屋が4月10日、52年の歴史にピリオドを打った。地下食料品売り場を最大の強みに、買い物だけでなく、交流の拠点として市民に愛され続けてきた。にぎわいをもたらす“中心街の顔”も、時代経て集客力が低下。郊外に次々と大型ショッピングセンターが誕生し客足を奪われる厳しい経営環境にあって運営母体を代え存続を図ってきたが、経営改善に至らなかった。従業員の再就職やテナントの移転など未解決の課題を残し閉店したが、巨大な空き店舗の動向が今後のまちづくりを大きく左右する。</p>
(8)	<p><b>東北新幹線全線再開 震度6強脱線1か月ぶり 5月13日から通常ダイヤへ</b></p> <p>JR東日本は4月14日、宮城、福島両県で震度6強を観測した地震で脱線し、一部運休していた東北新幹線の運転を約1か月ぶりに全線再開した。福島―仙台の運休が解消し、北海道新幹線や秋田新幹線も東京と直通。当面は減速し、本数を減らして運行する。東北新幹線は3月16日深夜の地震でやまびこ223号が脱線。設備なども損傷し、広範囲で運休した。修復が済んだ区間から順次運転を再開したが脱線現場を含む福島―仙台は復旧作業が遅れていた。再開は当初の予定より早まったものの全線再開に約1カ月半を要した東日本大震災に次ぐ長期運休となった。</p>
(9)	<p><b>県産リンゴの発砲果実酒 八戸酒造とJAアオレン共同開発 新発売</b></p> <p>八戸酒造と青森県農村工業農業協同組合連合会（JAアオレン）は4月15日、県産リンゴ果汁を使用したスパークリング果実酒「AOMORI JUICY LAB（アオモリジューシーラボ）リンゴ」を発売した。昨年秋ごろ、八戸酒造がJAアオレンに共同開発を持ちかけ実現した。JAアオレン独自の「密閉絞り製法」で搾った果汁のみを使用し、芳醇な香りとジューシーな味わいが特徴。価格は720ml入りで1800円（税抜き）。アルコール度数は3%。まずは千本を八食センターサービスエイトなど県内24店舗の酒店で販売する。</p>
(10)	<p><b>全漁連とJTBタッグ 支援事業八戸でスタート</b></p> <p>全国漁業協同組合連合会（全漁連）と旅行大手JTBが本年度、水産業の労働力確保に向けた支援事業を立ち上げた。深刻化する水産業の担い手不足を解消するため、日雇い契約者と人材難の会社をマッチングする仕組みで、全国に先駆けて八戸市の「ぜんぎょれん八戸食品」で取り組みをスタートする。事業では、JTBが希望する労働者と日雇い契約を結び、各社へ労働力を提供。受け入れ側の企業は作業内容や請負金などを協議しJTBと契約を結ぶ。労働者として、コロナ禍で深刻な影響を受けている観光や飲食業界、長期休暇中の大学生らを想定。地方や観光地などで仕事をしながら休暇を取るワーケーション中の人も視野に入れており、労働力確保や漁業関係者の拡大につなげたい考え。</p>

【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>熊谷市政 本格始動 コロナ対策、経済最盛重大局面</b></p> <p>昨年11月に就任した熊谷雄一新市長にとって2022年度は、自身が初めて編成した当初予算や人事による市政運営の本格スタートとなる。22年度は選挙戦で掲げた複数の公約を新規事業として予算化。コロナ対策を最優先としつつ、地域経済の活性化やデジタル化の推進、「デジタル推進室」の設置や子どもファースト事業に関連した「すくすく親子健康課」の新設など、新規事業や機構改革に政策公約を反映させた。また、22年度は向こう5年間の市政の最上位計画となる第7次総合計画の開始年にも当たる。市長は、政策公約を反映させた総合計画や未来共創推進戦略を進めていくための人事、機構改革としたと説明する。</p>
(2)	<p><b>八戸市 dボタン広報運用開始 県内初ABAシステム活用</b></p> <p>八戸市は4月13日、青森朝日放送（ABA）の自治体広報システムを活用して市政情報を発信する「dボタン広報」の運用を県内の自治体で初めて開始した。これは、テレビのデータ放送を利用したサービスで、テレビをABAの5チャンネルに合わせ、リモコンのdボタンを押し[dボタン広報]を選択すれば、自治体側が配信した文字の情報を無料で見られるもの。インターネット環境がなくても、新型コロナウイルスや災害、暮らしに役立つ情報などをテレビ画面で確認できるため、タイムリーな市政情報の周知がテレビを通して可能になる。</p>
(3)	<p><b>蕪島で環境調査開始 八戸市教育委員会、保存活用計画策定へ</b></p> <p>ウミネコ繁殖地として国天然記念物に指定されている八戸市鮫町の蕪島で4月16日、市教委として初の環境調査が開始した。調査は、島内に設けられた5メートル四方の区画8カ所で実施。傾斜や植物の生息状況などが異なる場所で、植物の種類や密度など繁茂状況を調べるほか、ウミネコの巣や卵、巣立ちの数などを分析する。島の植物がウミネコの生態に与える影響を探り、文化財保護法に基づき2024年度までに策定する蕪島の保存活用計画に繁栄させる。市教委は、国天然記念物の指定から100年の節目を契機に、保全と活用の両立を図り次世代に継承したい考えだ。</p>
(4)	<p><b>八戸市図書情報センター 特設コーナーでブックセンタースタッフが選書</b></p> <p>八戸駅に隣接する八戸市図書情報センター（市立図書館分館）では、八戸ブックセンターのスタッフ4人が選んだ本や雑誌を展示・貸出する「八戸ブックセンターのソムリエたち」を4月27日まで特設コーナーで実施した。進学や就職などで転入が増える時期に、ブックセンターのことを知ってもらおうと、情報センターが初めて企画。地元ゆかりの作家の著書やベストセラーの絵本など44点が並んだ。選ばれた中には、選書のプロが選ぶ図書館ならではのCD・DVDが多く、視聴覚資料も注目であった。</p>
(5)	<p><b>八戸市三日町、十三日町 歩道拡幅、車道2車線に</b></p> <p>八戸市は、三日町と十三日町を走る国道340号を、現行の3車線から2車線に変更、歩道を拡幅したうえで歩行者空間の充実を図る「中心街ストリートデザイン事業」に着手する。整備区間は「チーノはちのへ」などがある廿三日町交差点から「さくら野八戸店」などがある三日町交差点までの約350メートル。車道と歩道の高低差をなくし、八戸三社大祭や八戸えんぶりなどのイベント開催時は一体的に利用し、歩道には街路樹を植えたりなどゆとりのある空間づくりを進める。市は本年度、有識者を講師に招いた勉強会「まちなかストリートデザインラボ」を開き、市民からの意見を募集し、商店街や関係者と共に具体的なイメージをまとめ、道路を管理する青森県に提言する予定だ。人が集い、歩きたくなる街並みを目指す。</p>

(11)	<p><b>八食 独自に燻製ブランド 前沖さば、リンゴのウッドチップで</b></p> <p>八戸市の八食センターが、地元の水産物を燻製にしたオリジナルブランド「燻製堂」を立ち上げた。第1弾の「八戸前沖さば」は、特に大型の銀鯖を南部町産リンゴのウッドチップでいぶした一品で4月28日に販売を開始。開発には青森県産業技術センター食品総合研究所（同市）の協力を得た。果樹の剪定枝を活用した燻製を手がける「南部どき」が熱を通さない「冷燻」という手法でいぶし、使用する醤油は市内の老舗「甲文醤油」を使用するなど地元産食材にこだわった。レトルト加工で常温での持ち運びや長期保存が可能。今後も燻製商品のシリーズ化を進める予定で価格は1080円（税込み）で八食センター内の店舗やオンラインショップで購入できる。</p>
(12)	<p><b>エプソンアトミックス 八戸や周辺軸に新工場</b></p> <p>スマートフォンや自動車で使用される電子部品などの原材料となる微細合金粉末の生産で、世界トップシェアを誇る「エプソンアトミックス」（八戸市）は4月21日、不要となった金属を、同社の金属粉末製品の原料として再資源化する新工場を整備する方針を明らかにした。同社の親会社「セイコーエプソン」（長野県諏訪市）は、「50年の地下資源消費ゼロの達成」を掲げており、新工場を整備をグループ内で資源を循環できる体制確立の第一歩として位置付けている。立地場所は青森県内で、八戸や周辺地域を軸に検討。2025年の稼働を目指す。敷地面積は未定だが、約3万平方メートルある八戸市の北インター事業所と同程度を見込んでおり、建物と生産設備への投資額は数十億円とみられる。</p>

【地域】

記事	概要
(13)	<p><b>熊谷風音さん（八戸高専）市長賞「こどもホスピス」建築提案</b></p> <p>令和4年2月にオンライン開催された「元気な八戸づくり若者シンポジウム」で、重い病気の子どもが過ごす「こどもホスピス」の建築を提案した八戸高専の循環都市・建築デザインコース5年生（2021年度）の熊谷風音さんが、最高賞の八戸市長賞に輝いた。シンポジウムはNPO法人地域活性化教育支援ネットワークが主催し、小学生から大学生まで11組が発表した。熊谷さんは、「現代における『潮観荘』の再建計画の提案」と題して発表。鳥瞰図絵師の吉田初三郎が全国の景勝地を保養の場として広めたことを踏まえ、吉田のアトリエ兼別荘「潮観荘」があった種差に子ども向けホスピスの建築の提案をした。淀の松原の松葉をイメージしたデザインの建物で、種差の土地の形成や植生なども考慮して設計した。</p>
(14)	<p><b>聞いてける 放送6000回目 BeFM番組「おもしろ南部弁講座」</b></p> <p>八戸市のコミュニティーラジオ放送局BeFMのラジオ番組「おもしろ南部弁講座」が4月13日の放送で6千回を迎えた。番組は同局が開局した1999年に語学講座としてスタート。バラエティー要素が加わった翌年4月から、市民館長の榎谷伸夫さんと同市の劇団やませ代表の大館登美子さんの2人で出演し続けてきた。南部弁のネイティブスピーカー二人が毎回一つの南部弁を面白おかしく紹介し、これまで取り上げた南部弁は7千語になるという。2人のやり取りも魅力の一つで、青森県外から毎回メールを送る熱狂的なファンがいるというほど長く愛され親しまれてきた。記念すべき節目を控え、出演者らは廃れつつある南部弁をみんなで見直そうという気持ちで頑張りたいと意気込んだ。</p>
(15)	<p><b>PR用の紙芝居 動画化 八戸商工会議所「地場産品に愛着持って」</b></p> <p>八戸商工会議所は、地場産品の購買や理解を促進させる「Buy八戸」運動の周知を目的に作成した紙芝居を、動画用に再編集した。紙芝居は2015年に制作。マスコットキャラクターの「うみねこはっぴー」が、八戸の魚や野菜を荒らす悪い鳥を退治し、地元で活気が戻るまでを描いている。これまでは市内の幼児施設などで紙芝居を上演してきたがコロナ禍により現在は中止。動画は、園児向けと、大人向けの南部弁バージョンの2種類を用意し、語り役は、NPO法人はちのへ未来ネットの平間恵美さんと八戸市市民館長の榎谷伸夫さんが務めている。動画はユーチューブで配信しており、動画をみてもらうことでさらなる運動の普及啓発を図る。</p>

	<b>無償塾開講へ高校生奔走 猪股美玲さん（八戸・ウルスラ高3年）</b>
(16)	<p>全国から集まった高校生有志による学生組織「Get CHANCE（ゲットチャンス）」が、経済的な事情などで学習塾に通えない児童、生徒のために無償のオンライン塾を開講しようと奔走している。八戸聖ウルスラ学院高3年の猪股美玲さんは、この取り組みに東北地方から唯一参加している。猪股さんは昨夏、地方自治体と経済界が人材育成のために企画した「日本の次世代リーダー養成塾」に青森県代表の一人として参加し、養成塾が終了した後もメンバーと連絡を取り合い、運営母体となるオンライン上の組織「Get CHANCE」を立ち上げた。オンライン塾は、ビデオ会議システムZoomを使用して開催。授業は大学教授や大学生などボランティアが受け持ち、資金はクラウドファンディングでの調達を想定している。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>八戸三社大祭 山車運行3年連続見送り</b></p> <p>八戸三社大祭運営委員会は4月22日、全体会議を開き、今年の三社大祭（7月31日～8月4日）について、神社行列や山車の合同運行を見送る方針を決定した。霽、長者山新羅、神明宮の3神社の祭礼行事は8月1、2日に執り行う。規模を縮小して開催するのは3年連続となった。山車の制作や合同運行は大勢の市民が参加するため、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実施は困難と判断した。市内では、山車組の存続を危ぶむ声も出ているが、運営委をはじめとした関係団体は今後、伝統の継承や保存を目的とした行事の実施を検討する。</p>
(18)	<p><b>アンサンブル金沢のコンダクター 松井慶太さん（八戸出身）9月就任</b></p> <p>八戸市出身の指揮者松井慶太さんが、9月にオーケストラ・アンサンブル金沢のコンダクターに就任することが決定した。同オーケストラは1988年に金沢市を拠点に設立した、日本初のプロの常設室内管弦楽団。4月18日に行われた発表によると、アーティストック・リーダーの広上淳一氏を筆頭とした新指揮者陣で9月から新たなシーズンを迎えるという。松井さんは、東京音楽大を卒業してから約15年間、毎年同オーケストラに客演指揮者として出演してきた。5月1日に八戸市公会堂で開催された「仙台フィルハーモニー管弦楽団ガラ・コンサート」でも指揮を務めた。</p>
(19)	<p><b>総合格闘技「修斗」工藤諒司さん（八戸出身）PFL参戦</b></p> <p>総合格闘技「修斗」のプロ選手、工藤諒司さん（八戸市出身）が、米総合格闘技団体のプロフェッショナル・ファイターズ・リーグ（PFL）と契約し、4月28日（日本時間29日）に米テキサス州で行われる初戦に臨んだ。光星学院高（現八戸学院光星高）時代、レスリングでインターハイ個人3位に入り、国土館大でも競技を継続。総合格闘家になってからはフェザー級で10勝1分2敗の成績を収め、世界ランキングでは4位まで上り詰めた。試合は10人の猛者がリーグ戦形式のレギュラーシーズンに臨み、8人が勝ち進むプレーオフ、その後のチャンピオンシップを経て頂点を決める。工藤さんは「後悔がないように戦って帰る」と決意を示した。</p>

はちのへ

## ふるさと寄附金のご案内

### 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

### 申込み方法

#### 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



#### インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



### 送付先

#### 八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。